

創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
中間評価報告書

研究開発課題名	新しい医薬品モダリティ・ワクチンや感染症治療薬の動態評価のためのPET イメージング技術の高度化に関する研究
代表機関名	国立大学法人長崎大学
研究開発代表者名	向井 英史
全研究開発期間	令和3年度 ～ 令和7年度（予定）

1. 研究開発成果（公開用）

中間報告書（下 URL）参照

<https://www.amed.go.jp/content/000120238.pdf>

2. 総合評価

- ・優れている

【評価コメント】

新たな医薬品モダリティに適応可能な PET イメージング技術の高度化を着実に進めている。PET イメージングに基づき時間分解能に優れた定量解析を行うことにより、肝臓集積におけるメカニズムや全身分布、リンパ移行の評価など、ヒト外挿性も視野に、本技術の応用範囲の拡大につながる成果を上げており、評価する。

得られた知見を DDS 製剤設計にどの様に反映させ、シーズ開発に活用するかについて、課題間連携でのシーズ開発課題への対応も活かし、個別課題の部分最適化を図るとともに、汎用化も意識し進めること。また、多岐にわたるシーズ開発課題と連携を予定しているが、研究担当者の適切なエフォート管理を行い、遅延なく着実に研究を進めること。

以上